

[成果情報名]トルコギキョウ品種「レイナホワイト」の年内および1～2月出荷作型における大苗定植技術

[要約]トルコギキョウ品種「レイナホワイト」において、大苗定植による50%平均開花日は普通苗と比べて年内出荷作型で18日、1～2月出荷作型では10日早くなり、切り花品質はほぼ同等である。

[キーワード]トルコギキョウ、大苗定植、開花日、切り花品質

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・花き・生物工学研究室

[連絡先]（代表）0957-26-3330

[区分]花き

[分類]指導

[作成年度]2016年度

[背景・ねらい]

トルコギキョウの大苗定植は、定植後のロゼット回避や、冬春期の在圃期間の短縮に効果があることが明らかとなっている。しかし、生産現場では「レイナホワイト」のように大輪系でボリューム確保が必要な品種において、生育の早い大苗では普通苗に比べて切り花のボリューム確保が難しいのではないかと懸念がある。

そこで、定植時期が高温期にあたる年内出荷作型および1～2月出荷作型において、苗齢の違いによる開花日と切り花品質の差異について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 大苗定植による年内出荷作型の50%開花日は、普通苗に比べて18日早い（表1、写真1）。また、大苗の切り花品質は切り花長、切り花重で普通苗と同等であり、有効花蕾数は有意に多くなる（表1）。
2. 大苗定植による1～2月出荷作型の50%開花日は、普通苗に比べて10日早い（表1、写真2）。また、切り花品質は同等である（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 基肥施肥量は年内出荷作型では窒素成分9.6kg/10a、1～2月出荷作型では5kg/10aを施用した。このほか、一番花発蕾前まで週一回、窒素成分で43.5g/10a（1000倍液）を施用した。
2. 普通苗区の年内出荷作型において軽度の葉先枯れ症が見られた。また両作型において、定植後の高温によるロゼット発生株はなかった。大苗区においては両作型とも、ロゼットおよび葉先枯れ症の発生株はなかった。

[具体的データ]

試験区の概要

区名	定植前の苗状況
大苗	本葉 3~4 対が展開した苗
普通苗	本葉が 2 対以上展開しており、3 対目が完全に展開していない状態の苗

[耕種概要]

管理内容	年内出荷作型	1~2 月出荷作型
播種	大苗 : 2016/6/17 普通苗 : 6/29	大苗 : 2016/6/29 普通苗 : 7/13
定植	8/26	9/16
温度管理	① 8/26~10/24 日中 25℃換気、夜間開放 ② 10/24~11/30 日中 22℃換気、夜間 10℃保温 ③ 12/1~12/28 日中 22℃換気、夜間 13℃一定	① 9/15~10/24 日中 25℃換気、夜間開放 ② 10/24~11/30 日中 22℃換気、夜間 10℃保温 ③ 12/1~12/28 日中 22℃換気、夜間 13℃一定 ④ 12/28~ 日中 22℃換気、夜間 15℃一定
長日処理	9/21 より白熱電球で 6 時間 (22:00~4:00) の暗期中断	
仕立て方法	頂花および一次小花を摘蕾後、二次および三次小花を 6~7 輪を残し、これより高次の小花は摘蕾した。	

表 1 「レイナホワイト」の年内および 1~2 月出荷作型における苗別の 50%開花日および切り花品質

作型	苗の種類	50%開花日 ^z (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	有効花蕾数 ^y (個)	プラスチック 花蕾数 (個)
年内	大苗	11/28	68.3	85.3	7.3	0.0
	普通苗	12/16	72.3	89.8	5.8	0.8
	有意性 ^x	—	n.s	n.s	*	n.s
1~2 月	大苗	1/23	68.1	73.3	4.8	0.5
	普通苗	2/2	69.8	75.4	4.8	0.3
	有意性 ^x	—	n.s	n.s	n.s	n.s

z) 50%開花日 : 3 輪開花した株が 50%を超えた日

y) 有効花蕾数 : 長さ 20 mm 以上の蕾

x) 有意性 : t 検定で*は 5%水準で有意差あり、n. s は有意差なし



写真 1 年内作型における開花状況
左) 普通苗 (対照) 区 右) 大苗区



写真 2 1~2 月出荷作型における開花状況
左) 普通苗 (対照) 区 右) 大苗区

[その他]

研究課題名 : トルコギキョウの 1~2 月出荷作型、二度切り 5 月出荷作型における早期出荷・安定生産技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 2016~2018 年度

研究担当者 : 池森恵子